

今こそ、家庭教育が 大切です

阿部 純一

全日本家庭教育研究会 教育対話主事

教育の原点は「家庭」にあります。子ども達は、家族との温かい関わりや体験を通して、基本的な生活習慣や生きていくために必要な社会でのマナーなど多くのことを学び、たくましく成長していきます。

ところが、今日ほど家庭崩壊の危機を痛感させられることはありません。

子育てに不安を抱えている親や児童を虐待する親、また青少年をめぐる様々な憂慮される問題行動が連日のように伝えられ、家庭の教育力の低下が指摘されています。

経済的な発展により物質的には豊かですが、子どもを取り巻く教育的環境は必ずしも十分なものとは言えません。核家族化や少子化、女性の社会進出や地域とのふれあいの希薄化、ライフスタイルの多様化など厳しい社会状況の中で様々な課題や悩みを抱えている家庭が多いのが実情です。

家庭の教育力の再生に向けての提案

家庭の教育力を向上させるためには、親が自分の子どもをどう育てるかという信念や目標を、しっかり持つことが大事なことです。そして子ども達が夢や希望が持てるように明るく、温かく、美しい環境を日々作り上げることが大切です。温かい心の環境が人を育てます。

① 基本的な生活習慣の確立としつけの充実

「早寝早起き」「あいさつ」から始め、「身の回りの整理整頓」など規則正しい生活リズムが、日々の子どもの生活を充実させます。

- お手伝いや家事の分担など家族が協力して家事を行うことで、家族の一員としての責任感と自立心を育てます。
 - 規則正しく1日3食の食事を摂ることが大切です。できるだけ栄養のバランスを考えた手作りの食事を摂ることです。子どもの活動のエネルギー源になります。親子が一緒に料理する機会を多く持ち、「食」を大切にする家庭が食文化を育てます。
 - 規範意識を育むことが大切です。善悪を区別する力や我慢する心、思いやりの心、ゆずり合う心を身につける。叱るべきときは叱り、悪いことは悪いと教え、人として身につけるべき基礎・基本（社会のルール）をしっかりと身につけることです。
- ② 豊かな心を育むこと
- 子ども達には豊かな自然体験や社会体験を通して、学ぶことの意味や楽しさ、人と関わることの素晴らしさに気づかせ、自分に自信と誇りを持って欲しいと思っています。
- 知識を得る学習とともに、体験を重視することによって子どもの「生きる力」が育ちます。
- 体験活動で子どもが人間関係やコミュニケーションについて学ぶ機会が増え、人間としての優しさ・温かさ・思いやりが育まれるのです。
- また、身の回りや社会のできごとにも

目を向けるように働きかけ、興味や関心を持って、自ら進んで学ぶ好奇心が育てられます。

- 読書に親しむことも大切です。ある絵本作家が「人は言葉で動くのではありません。人は感動で動くのです」と言っています。子どもにとって本の世界は夢とロマンのある豊かなイメージの世界なのです。

読書は子ども達に基礎学力や考える習慣を身につけさせ、豊かな感性や想像力を育てます。親子で読書を楽しむ「読書タイム」を設けたり、家族で図書館へ行き、新しい本との出会いを楽しみましょう。

- ③ 家庭を安心して過ごせる場に

家族の団らんを大切にし、子どもの思いを受け止め、親子で夢を語り、心が安まる家庭。家族間のいたわりや励ましのある温かい家庭。子どもの良いところを認めほめて、長所を伸ばしていく家庭。家族が協力し合って安心して過ごせる家庭。

そのためにも父親がもっと積極的に家庭教育に参加し、親自身が学ぶ気持ちを持ち、趣味や習いごとにチャレンジし、生活に新しい風を吹き込むことも大切なことです。

- ④ 家庭での学習習慣を育むこと

「環境は人が創る。子どもの環境は親がつくる」

家庭でできることは、家庭学習の環境づくりです。親子がふれあって学習習慣を身につけるような場づくりから始めることが大切です。親に見守られていると

いう安心感の中で、学習習慣を身につけることができ、学年が進むにつれて自学自習の習慣が身についていくようになります。時には、親は見守り、励まし、相談に乗ってあげながら、子どもの進路を決める手助けをしてあげることが必要です。

教育は、家庭教育の確立から・・・これは全家研の祈りです。

私は、この厳しく変化する現代社会にあって、全ての子どもが持つ無限の可能性をしっかりと引き出し、全ての子どもが健やかに成長するために、教育の原点である家庭教育のお手伝いをさせていただいていることを誇りに思っています。